



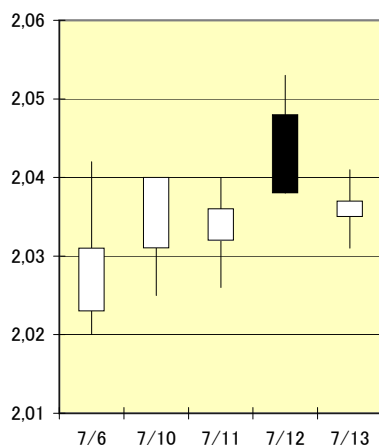
ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

1. Market Rate

			7月6日	7月10日	7月11日	7月12日	7月13日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	2,0310	2,0400	2,0360	2,0380	2,0370	-0,0010
	USD/YEN	Spot	79,68	79,42	79,75	79,28	79,26	-0,02
	EURO/USD	Spot	1,2287	1,2250	1,2237	1,2202	1,2241	+0,0039
	REAL/YEN	Spot	39,23	38,93	39,17	38,90	38,91	+0,01
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,63	1,61	1,69	1,81	1,74	-0,07
		1Year(p.a.)	2,12	2,13	2,26	2,34	2,28	-0,06
	Real Interest	6MTH(p.a.)	7,55	7,49	7,46	7,46	7,44	-0,02
		1Year(p.a.)	7,48	7,43	7,37	7,38	7,37	-0,01
Stock	Bovespa		55.394,05	53.705,82	53.569,14	53.420,87	54.330,51	+909,64
Bond	EMBI+(bp)		213,00	210,00	205,00	204,00	204,00	u,c,
	Global 40		130,100	129,750	129,850	129,850	129,800	-0,0500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインディケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィサーまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日US\$/R\$推移



〔来週の予想相場レンジ〕

2.00～2.07

〔来週の為替市場注目点〕

全世界的に経済指標の悪化傾向が顕著となっており、欧州危機が世界経済に与える影響が懸念される。一方ブラジルでは今週追加利下げが実施され、政策金利は過去最低の水準となった。更に中銀による介入警戒感が強く、レアルは極めて限定的なレンジで推移した。当局担当者のコメントからは過度なレアルの変動に対して今後も介入実施を示唆しており、当面レアルのボラティリティーは限定的となるであろう。

- ・ 伯インフレ指数: IPC-S (16日)、IGP-10 (17日)、IGP-M (19日)、
伯インフレ指数: IPCA-15 (20日)
伯貿易収支 (週次) (16日)、FIPE週次消費者物価指数 (17日)
伯金融政策決定委員会議事録 (COPOM) (19日)

- ・ 米ニューヨーク連銀製造業景気指数、小売売上高 (16日)、
米消費者物価指数、鉱工業生産、設備稼働率 (17日)
米住宅着工件数 (18日)、中古住宅販売件数、景気先行指数 (19日)

2. 市況、トピックス (As of Jul-13)

【伯政策金利が史上最低水準まで引き下げられるも、上下共に介入警戒感が強くレアルの値動きは限定的】

今週の為替相場はUS\$1=R\$2.0310で寄り付いた。9日はサンパウロ州の祝日のため休場となった。翌10日は祝日明けで薄商いの中、レアルは2.03台半ばを中心に方向感の乏しい展開となったが、ユーロが対主要通貨で下落し始めるとレアルも売りが優勢の展開となった。週央には米FOMC議事録の発表を控えて追加刺激策発表に対する期待感からレアルは上昇し、週間高値となるUS\$1=R\$2.0260をつけたが、5月伯小売売上高が予想外の落ち込みを示したことから伯政策金利の更なる低下を織り込む動きが強まり、一転レアル売りが優勢となり2.03台半ばまで反落した。尚、同日夕刻には注目のCOPOM結果が発表され、50bpの利下げが実施された。これにより、ブラジルの政策金利は史上最低となる8.00%となった。インフレリスクは限定的との中銀声明に加え、ブラジル経済が鈍化傾向にあることから次回会合以降の追加利下げの蓋然性が高まる結果となった。12日にはエマージング通貨全般に売りが見られ、レアルも週間安値となるUS\$1=R\$2.0530を付けたが、中銀による介入警戒感から2.04台前半まで買い戻された。

本日の為替相場はUS\$1=R\$2.0350でオープン。オーバーナイト市場で発表された中国の第2四半期実質GDP成長率が懸念されたほどの悪化が見られなかったことが好感され、全般的にリスク資産に買いが入った。レアルも寄り付きから買いが先行し、11時には本日の高値となるUS\$1=R\$2.0310を付けた。しかし高値示現直後から市場では大口のアウトフローが噂され、レアルは一気に本日の安値となるUS\$1=R\$2.0410まで売り込まれた。午後にかけてはドルが対主要通貨で下げ幅を拡大する中、レアルの買い戻しも見られたが、小幅な動きに止まり、その後は終日2.03台後半で膠着となり、結局US\$1=R\$2.0370で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したもので、その情報の正確性、安全性を保障するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。